

「現地メディア向け開発協力プレスツアーを行いました」

2018年12月13日、在パキスタン日本国大使館は、現地メディア向けプレスツアーを実施しました。イスラマバードに拠点を置く新聞社や通信社の記者は、大使館の招待により、日本政府によるパキスタンの開発支援事業の例を視察するためにパンジャブ州のラホールを訪問しました。

このプレスツアーは、日本のパキスタンに対する開発協力が現地メディアで取り上げられる機会を増やし、パキスタンの政府関係者及びパキスタン国民への情報発信を強化するためのものです。

メディア関係者一行は、ラホールにおいて、日本の対パキスタン開発支援である「パンジャブ州送電網拡充計画」（有償資金協力）及び「ラホール給水施設エネルギー効率化計画」（無償資金協力）のプロジェクトサイトを視察し、パキスタン政府の当該事業実施機関から事業に関する説明などを受けました。

（パンジャブ州送電網拡充計画）

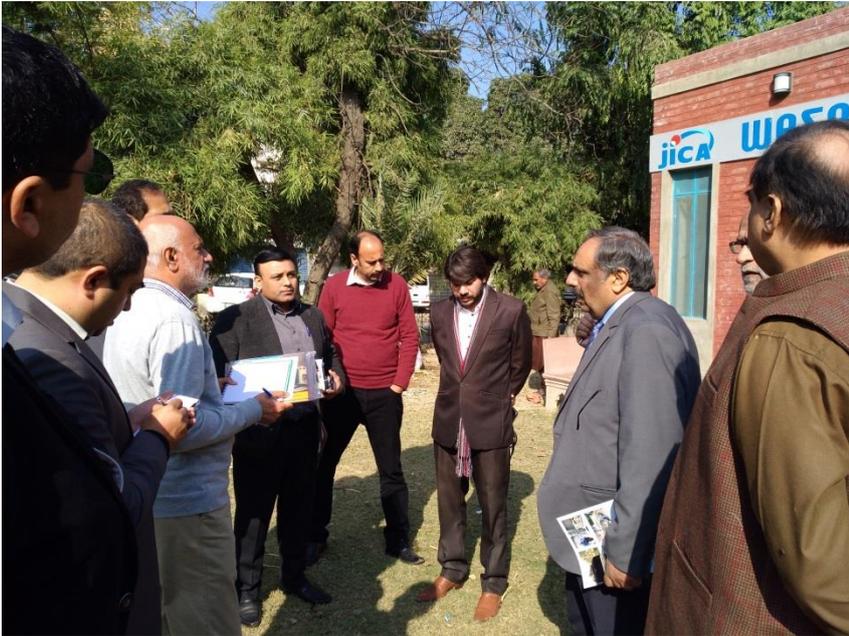


メディア関係者一行は、「パンジャブ州送電網拡充計画」のプロジェクトサイトの1つであるシャリマ一変電所を訪問し、まず国営水利電力公社（WAPDA）の役割や同公社に対するこれまでの日本の支援などについて説明を受けました。また、「パンジャブ州送電網拡充計画」の意義に関する説明も受けて、質疑応答を行いました。その後、同変電所内において日本の支援によって設置した設備を確認し、WAPDA関係者から各設備の機能や利点について説明を受けました。

（ラホール給水施設エネルギー効率化計画）

メディア関係者一行は、ラホール上下水道公社（WASA）本部も訪問して、WASAラホールがこれまで受けたJICA支援事業について説明を受けました。特に「ラホール給水施設エネルギー効率化計画」という日本の無償資金協力事業について重点的に説明を受け、質疑応答を行いました。WASAラホールによれば、日本の支援事業のおかげで地下水のくみ上げを効率的に行うことができるポンプがラホール市内に多数設置されるなどして、日本の支援がWASAラホールの財政改善にも寄与しているとのことでした。

WASAラホール本部を訪問した後は、「ラホール給水施設エネルギー効率化計画」のプロジェクトサイトを視察して、日本の支援によって整備された設備の機能などについて説明を受けました。



プレスツアー後、ツアーに記者が参加した新聞社は、ツアーに関連する記事を紙面に掲載しました。
(了)